

数字で見る 大阪市の下水道

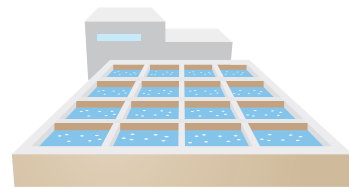
99.9%

処理人口普及率及び水洗トイレの普及率は、99.9%です。



12か所

下水処理場は12か所あります。この他に、下水汚泥を集中処理する舞洲スラッジセンターがあります。



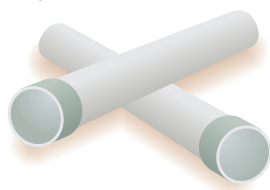
2,066,000m³/日

12か所の下水処理場では1日に、2,066,000m³の下水を処理することができます。これは大阪市の庁舎をまずにして、およそ9杯分にあたります。



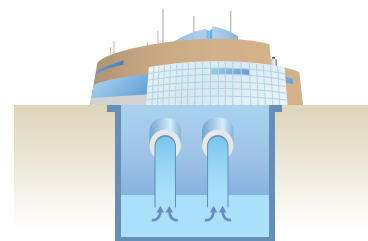
4,993km

市内には、管径20cmから6.5mの下水道管(管渠:かんきょ)が網の目のようにはりめぐらされており、その総延長は4,993kmもあります。



59か所

抽水所(ポンプ場)は59か所あります。



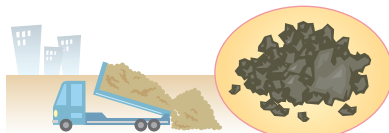
約1,370m³/秒

抽水所(ポンプ場)と下水処理場のポンプ施設をあわせて、1秒間に約1,370m³の水を排水することができます。これはドラム缶およそ6,850本分にあたります。



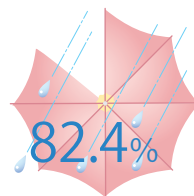
1,050トン

大阪市では、下水処理などによって発生する下水汚泥を1日に1,050トン処理(溶融または炭化)することができます。建設資材や火力発電所の燃料として有効活用しています。



82.4%

大阪市では、概ね10年に1回の大雨(1時間あたり60mmの降雨量)でも浸水しないことを目標に整備を進めていますが、このような下水道整備ができた区域の比率(雨水対策整備率)は82.4%となっています。



(令和7年4月1日)

目次

■ 数字で見る大阪市の下水道	1	■ 地震対策	15
■ 下水道の役割	2	■ 都市環境保全	16
■ 下水道のあゆみ	3	■ 技術開発	19
■ 下水道のしくみ	5	■ 情報発信	20
■ 大阪市下水道事業経営戦略	7	■ 工場・事業場の排水規制	22
■ 大阪市の4つの施策体系と事業内容	10	■ 下水道事業の財政	23
■ 機能維持	11	■ 大阪市内の下水処理場	25
■ 浸水対策	13	■ 各種お問合せ	27

下水道の役割

普段の生活で使われているお風呂やトイレなどの水は、使用したあと、下水道管・抽水所（ポンプ場）を経て、下水処理場へと送られ、処理を行ったあと、河川や海へと放流しています。

このような使用した後の水を処理しないまま放流してしまうと、水質の悪化・悪臭につながってしまいます。

下水道は皆さまの衛生的で快適な暮らしを支えるとともに、河川・海の水環境も守っています。

また、大雨が降ってもまちが浸水しないようにするのも下水道の役割です。

さらに、近年では下水道から発生する処理水やバイオガスも有効に活用し、循環型社会に貢献することが求められています。

このように、生活環境の改善、浸水被害の防止といった役割を担う下水道は、安全かつ快適に暮らせるまちづくりに欠かせない存在です。

一方で、かねてより整備を進めてきた下水道施設は、老朽化した施設の改築・更新が大きな課題となっています。

また、多発する集中豪雨や今後予想される大地震への対応、河川・海の水質保全のための合流式下水道の改善、高度処理など、下水道の取り組むべき課題は多く残されています。

浸水の防除

都市における浸水被害の増加の要因は以下のようなものがあります。

- 近年の集中豪雨の増加
- 都市開発による雨水流出量の増加
- 地下空間の高度利用化による浸水被害の増加

大雨から生命・財産を守り、安全に、かつ安心して暮らせるように雨水の排除を行います。



公衆衛生の向上・水環境の保全

公衆衛生の向上

下水道を整備することで、家庭や工場などから排水された汚水を処理し、快適な生活環境を確保します。

水環境の保全

河川・海の水質汚濁は、家庭の生活排水、工場施設等からの排水の放流などが原因でおこっています。

適切な指導・排水規制を行い、良好な水環境を守っています。



資源の有効利用

地球温暖化が問題となっている今、

資源・エネルギー需給の循環型社会への転換、脱炭素社会の構築が求められています。

そのため、下水の処理過程で発生する物質等を資源・エネルギーとして活用、再生する循環型システムを更に進めていく必要があります。

